

# 第 1 回教育委員会臨時会会議録

令和 2 年 8 月 4 日（火）

場 所：国立市役所 委員会室

出席委員	教 育 長	是 松 昭 一
	教 育 長 職 務 代 理 者	山 口 直 樹
	委 員	猪 熊 緑
	委 員	操 木 豊
	委 員	大 野 孝 儀
出席職員	教 育 次 長	橋 本 祐 幸
	教 育 総 務 課 長	高 橋 昇
	教 育 指 導 支 援 課 長	市 川 晃 司
	指 導 担 当 課 長	荒 西 岳 広
	指 導 主 事	武 内 陽 子
	指 導 主 事	小 島 章 宏

国立市教育委員会

## 付議案件

区分	件名	
報告事項	1) 教科用図書の採択に関する要望書について(2件)	
議案第41号	令和3年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について	
議案第42号	令和3年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について	

○【是松教育長】 皆さん、こんにちは。小中学校も 7 月 31 日で長いようで実質的には短かった 1 学期が、コロナ感染が校内に発生しないうちにひとまず終了いたしました。8 月 1 日から短い夏休みに入りましたが、幸い 8 月に入って梅雨も開けて、夏休みらしい天気が続いております。子どもたちは短い夏休みを有意義に過ごしていただきたいなど思っているところでございます。

それでは、これから令和 2 年第 1 回教育委員会臨時会を開催いたします。本日の会議録署名委員を山口委員にお願いいたします。よろしいでしょうか。

○【山口委員】 はい。

○【是松教育長】 ありがとうございます。



○議題（1） 報告事項 1） 教科用図書の採択に関する要望書について

○【是松教育長】 それでは早速審議に入ります。最初に報告事項 1 「教科用図書の採択に関する要望書について」を議題といたします。

高橋教育総務課長。

○【高橋教育総務課長】 報告事項 1 「教科用図書図書の採択に関する要望書」につきまして、本日「国立の教育を守る市民連絡会」及び「子どもたちが主権者の社会科教育を求める会」より、教科書採択に関する要望書を頂戴しております。以上です。

○【是松教育長】 要望書を 2 件いただいておりますが、本要望書につきましてはいずれも具体的な教科書会社名を指名したものでございまして、直接本日の採択議案に関わるものでございます。また、そのうち 1 つのほうにつきましては、東京都教育委員会の教科書調査研究資料に関わる要望でございますが、これは同様のものを同一要望者から 7 月定例会で提出させていただいております。その趣旨については重々承知しているところでございます。

以上の理由から、本要望書 2 件についての取扱いはこの場では行わないということで、各委員の今後の採択の参考としていただくということで取り扱いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）



○議題（2） 議案第 41 号 令和 3 年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について

○【是松教育長】 それでは、議案第 41 号「令和 3 年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

最初に事務局から説明をお願いいたします。

市川教育指導支援課長。

○【市川教育指導支援課長】 それでは、議案第 41 号「令和 3 年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について」ご説明いたします。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 6 号及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条第 1 項に基づき、国立市立中学校で令和 3 年度から令和 6 年度の 4 年間使用いたします各教科の教科用図書につきまして、採択いただくことになります。

国立市立学校教科用図書採択要綱に基づき設置されました審議会の調査結果につきましては、先に開催されました 7 月 21 日の定例教育委員会において、机上に配付しました資料のとおり、教科用図書審議会委員長からご報告させていただいております。また、6 月 12 日から 7 月 10 日まで、国立中央図書館及び国

立市公民館において、教科用図書展示会を実施いたしました。市民等の皆様から 34 件のご意見を頂き、7 月の定例教育委員会において、資料として配付をさせていただいております。

説明は以上になります。ご審議のほどよろしくお願いたします。

○【**是松教育長**】 だたいま教育指導支援課長から説明を頂きました。それでは、早速審議に入りたいと思いますが、先ほどの説明にございましたとおり、7月21日開催の定例教育委員会で教科用図書審議会から審議結果の報告を受けました。各教育委員におかれましては、この審議結果や教科書公開展示の際に頂いた多くの方々からのご意見、ご感想、また、様々な要望書の内容等を参考の上に、国立市の公立中学校にふさわしい教科用図書についての考えを深めていただきたいと思います。

それでは各教科ごとにご意見を頂きながら、令和3年度使用の中学校教科用図書についての採択をしていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【**是松教育長**】 それではまず、最初に国語からご意見を頂きたいと思いますが、どなたかいかがでしょうか。

山口委員。

○【**山口委員**】 昨年は小学校の図書の採択の審査をさせていただいて、今年は中学校で、両方とも新しい指導要領に基づく教科書という形になりますが、そういう意味でも慎重に教科書を選んでいきたいなど思って見させていただきました。ただ、現在もほとんど傍聴の皆さんもマスクを着用していただいたりと、コロナの渦の中でいろいろな状況が制限されている中での教科書採択というのは、いろいろなことを考えさせられるなどと思います。現にこの教科書を使う中学生たちも、先ほど教育長からのご報告がありましたように、長い休校の末の1学期がやっと終わったところで、短い夏休みでその2週間後には2学期が始まるという、通常とは違う環境の中で今、学業が進み始めている。その中での教書採択という、いろいろなことを同時に思わせられました。

当然ですけれども、教科書の内容の中には新型コロナのことにすることは載っていないのですけれども、様々実際の授業を行うときには影響が出てくるなどというのを想像しながら見えています。今の状況は、本当に1年前では想像もしていなかった状況で、これから先どうなっていくのか、なかなか見通せない状況、これから先の子どもたちが置かれている状況の見通しの中で、今まで言われていた指導要領の改定も大きな1つのポイントみたいな、まさに真っただ中にいろいろなことを感じながら、教科書を見させていただきました。

長くなってしまいましたけれども、感想を最初に述べさせていただきました。

国語ですけれども、全部で4つの会社さんから教科書の候補が出ています。その中で、現在国立市は光村図書を使っておりますけれども、それから全体を見させていただいた中で、三省堂の2社がよいかなど思って、この2社を重点に見ていきました。

国語というのは考えたりとか、これから先のことを想像していったりとか、意味を読み取ることとか、全てのことの原点になって、ほかの教科の学習の原点となるかと思っておりますので、そういうところの力がつけられるかどうか。もう1つは、やっぱり中学生ですので、いろいろなよい作品を出会ってほしいという2つの思いがあって見させていただきました。今、出た光村さんも三省堂さんもよい作品が多く載っておりますけれども、三省堂さんのほうはグループディスカッションのこととかもしっかり載っていて、話し合いが組めるような内容にもなっております。光村さんは本当に定評のある作品とか、説明文なんかもいい執筆の方の作品が載っているようなこともありまして、全体として見たときにやっぱり光村さんのほ

うを推したいと思っております。以上でございます。

○【是松教育長】 ほかの委員、いかがでしょうか。

猪熊委員。

○【猪熊委員】 山口委員も最初にコロナのことには触れられていましたが、やっぱり教科書にディスカッションするところが多く載っています。今の状況だと、これできるのかなと思いつつ、いろいろな教科書を見させていただきました。もちろんこの教科書を作られているときにはこのような状況を全く想像できなかったのですが、当然のことなのですが、そんなことも思いつつ見させていただきました。

国語科ですが、まず、教科書を開いて、行の5行、10行目とか、数字が書いてあるのが光村さんと三省堂さんは5行おきに、5、10、15と書いてあるのですけれども、教育出版さんと東京書籍さんはぼちが4つあって、10と書いてあって、多分生徒は国語の最初のときに、段落分けとかをよくやっているみたいなので、そういうのをみんなで合わせるときにぼちとかもあつたほうが、みんなでここだよみたいなのが分かりやすいのかなという感じはいたしました。

あとは、1学年に1つは4社ともに載っている同じ教材というか物語というか、そういうのがあつたので、その単元の目標とか振り返りのところなんかを比べて見てみると、光村の場合だと、その物語を読み深めることはもちろんですが、さらにそこからほかの作品を読むときにも生かせそうな観点を挙げてみようとか、小説を読んで自分の考えを持つために大切にしたい観点を挙げてみようなど、読み物からさらに発展して行って、教材として使っているみたいな感じがとてもいたしました。三省堂なんかでもこの小説を映画化するとしたら、そのキャッチコピーを作ってみようみたいなのが書いてあつたりして、読み深めていくことからさらにまた展開していけるようなことが書かれているのかなと思いました。光村さんのQRだと、NHKのアナウンサーの加賀美さんの古文の朗読などが聞けたりして、子どもたちも話を聞くことによってまたさらによく分かるのではないかなということを感じました。

以上のことから光村図書さんがいいかなと思いつつ、三省堂さんもいいかなと思いつつ。以上です。

○【是松教育長】 ほかはいかがでしょうか。

操木委員。

○【操木委員】 こんにちは。操木です。私は2社を選択してみたのですが、1社は光村、1社は教育出版。光村のいいなと思つたところは、やっぱり時代を超えて親しまれる作品と、それから生徒たちに寄り添う新しい作品がバランスよく入っているという、その扱い方ですね。具体的には「言葉に立ち止まる 詩の世界」で、谷川俊太郎さんの詩とか、それから3年生の「未来へ向かって 温かいスープ」ということで、真の国際性を語るような文章、この辺りに魅力を感じました。

それから教育出版なのなのですが、特に1年生の「森には魔法使いがいる」という畠山さんの作品があるのですが、ここにも述べられているのですが、やっぱり人間の生活は必ず川の水というのが関与しているわけですね。もちろん恵みをもたらす川ですし、去年、今年と川の災害とかもありますし、本当に人間と結びつきの川、この教材は取り扱っていること、ここはすばらしいなと思いつつ、いろいろなことを中学生の子どもたちに考えてもらいたいなということで、この教材のよさを感じました。それから全体的に言葉を大事にしている、そんな印象を受けました。もし順位をつけるとすれば、教育出版、光村という順になるかなと思いつつ。以上です。よろしくお願ひします。

○【是松教育長】 大野委員、お願ひします。

○【大野委員】 光村図書を推薦する立場で感想を述べます。幾つか感銘した言葉なり、内容がありましたので、それを言いたいと思いつつ。まず、鷲田清一の言葉の中に「人生には超えてはならない、克服し

てはならない苦労がある」という、私にとっても衝撃的な言葉でありました。普通は苦労を超えろという立場なのですけれども、それを克服してはならない苦労があるということは、やっぱり哲学的な立場からの文章だと思い、非常に感銘を受けました。それから、次は大岡信の「言葉の力」、これは染織家で有名は志村ふくみを題材にして、桜の染め物をするときに花びらだけではなくて、花びらだと思っていたけれども木から染める、つまり全体から染められたものがあの色なのだと、人間の言葉というのも人間全体の中から、人間全体が背負っている、そこから出てくるものが言葉なのだと、非常に深い言葉に対するメッセージが感じられました。

それから向田邦子「字のない葉書」、これは戦時中における疎開していった妹、父親の深い悲しみと愛情。これは戦時中の話でありますので、戦争というのはいかに悲惨な状況だったのかということを実に日常生活から垣間見ることができるといことであります。これらの名作が非常に多いなど。それから俳句と短歌でも、宇多喜代子、これは俳句の流れが非常に分かりやすく書かれてありましたし、それから栗木京子、この人の文章もとても中学生に分かりやすい短歌の世界を示したと思います。以上のようなことから光村図書を推薦したいと思います。

○【是松教育長】 それでは私のほうですけれども、国語科というのは社会生活や人との関わりに際して、言語の習得というのが必要なわけですけれども、この言語の習得の基礎的かつ最も重要なものを育成していく教科だと思っています。したがって、話すこと、聞くこと、それから書くこと、読むこと、そういった言語の知識と技術の習得に満遍なく記するバランスの取れた教科書がふさわしいと思っているところでございます。こうした観点からこの4社の中では、私も光村図書がそういった要素を多分に含んでいるのではないかと思いますので、私は光村図書にしたいと思います。

各委員のご意見を頂きました。三省堂あるいは教育出版社という評価の高いものもございましたが、各委員が共通して推されたのは光村図書かなと思いますので、国語科においては光村図書を採択することで、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 それでは、国語科については光村図書を採択することといたします。

続いて書写に移ります。どなたかございますでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 書写も国語と同じ4つの会社さんが教科書を出しております。私は東京書籍さんと光村図書さんの2社に注目して見させていただきました。光村図書さんは楷書、行書、違いが分かりやすく書いてあったりとか、実際にも使いやすいような工夫が、あと、書写ブックというのがあるのですけれども、有効に使えるのではないかなということを感じました。

東京書籍さんは、学ぶこととか活用の場面がしっかり書いて、使いやすい教科書ではないかと。これ、大きさがそれぞれ違うな、東京書籍さんのほうが大きいのですけれども、そのことが多少使いにくさが出てくる可能性があるかなと思いました。光村図書さんのほうを推したいと思います。

○【是松教育長】 いかがでしょうか。

猪熊委員。

○【猪熊委員】 私は光村図書さんのものと三省堂さんのものが気になったかなと感じて見させていただきました。教科書の大きさがあまり大きくないほうが、書道のときなど道具もあるので、小さめのほうが置きやすいのかなと思いましたし、あと、光村さんは巻頭部分の書写ブックが取り外して使えるようになっているので、硬筆のときには使いやすいかなと思いました。

三省堂さんのものは硬筆の練習場所が結構多く取られているように思いましたので、それも使いやすいのかなと思いました。以上です。

○【是松教育長】 大野委員。

○【大野委員】 どの教科書も筆の運びというのが写真に載っているのですがけれども、私はその違いというのはよく分からず、似たりよったりかなという印象を持ちました。ただ、光村図書は国語と対応させながら、書写の指導がとてもスムーズにいくのかなと、私は国語も光村を推していましたので、もし一緒になるならば同時に対応しながら指導ができるのかなと、そういうメリットがあるのかなということを思いました。あと、佐藤卓という人のデザイナーが書いている文章が面白くて、実際その文字をどのように捉えるのかという文章なのですがけれども、それは楷書や行書をデザイン的な立場というか、そこから捉えて、そして、その文字から日本文化を再認識していくという、そういう発想の文章が載っていたのが印象的でした。光村図書を推したいと思います。

○【是松教育長】 操木委員。

○【操木委員】 中学生の書写の時間で、どれだけ教科書を使うのかなという観点から見たときに、指導として使うというよりも、むしろ生徒が自主的に使うのが書写の教科書という特質があるのではないかなと見方をしていました。そういう意味では、生徒が学びやすいという東京書籍の教科書とか、それから学びリンクというコンテンツがしっかりしている教育出版社などは、そういう立場でもいいのかなと、皆さんとは違う観点から見えていました。そうやって見ると、国語の教科図書と必ずしも一致する必要がないということもありまして、あえて教育出版、東京書籍を推したいなと思います。以上です。

○【是松教育長】 私は光村図書を採択したいと思います。硬筆と毛筆による丁寧で正確な文字表現の習得に資する内容になっているということ、特に毛筆の筆使い、あるいは点画のポイントが非常に分かりやすく示されているということ、また、やはり国語の教科書とのリンクがされているということを私は、これは絶対条件ではないのですが、より効果的なのかなと思っている次第です。

さて、操木委員以外については光村図書をおおむね推されているわけですが、操木委員は東京書籍あるいは教育出版ということでございますが、全体的に光村が多いということで、光村図書を書写の採択とすることでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは、書写については光村図書を採択することといたします。

続いて社会に移ります。社会の地理的分野について、お願いいたします。どなたかご発言ありますでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 社会は地理、歴史、公民、地図と4つの教科書採択をすることになりますが、全体を通して、今、生きている私たちの状況であるとか、それについての過去のこと、世界の全体のこととか、そこら辺を全て見ていくということ。多分コロナのことなども、いろいろな影響が出ている、そのことは当然教科書には書かれていないのですがけれども、教えるときには含みとして入ってくるのかなということを感じながら、見させていただきました。

地理は4つの会社さんが出されております。全部の会社さんとも工夫をされたり、資料も本当に細かくいい資料を豊富にそろえて、また見やすくされているなということを感じております。その中で全体を見たときに、東京書籍さん、現在も使っている、採用している教科書と、帝国書院さんの2つの会社さんを絞って見させていただきました。東京書籍さんは本当に、先ほども言いました情報量も多く、資料の取扱

い、読み取りとかもしっかりよくできている部分で使いやすい。それぞれのページの下にチェック・アンド・トライ、そのときにそのページでこのところでは何を学ぶかみたいな、ほかの教科書会社さんも出されているのですけれども、ちょっと目立つような形で書いていて、子どもの気を引いて、これは教えやすいのかなということも感じた部分になります。導入、関心が持ちやすいような問いかけから入っているようなことを感じた部分。

帝国書院さんは、写真等の資料が本当に見やすく、関心をもちやすいような工夫ですね、その事柄に関して。単元の終わりにまとめ、ほかの会社さんもあるのですけれども、しっかりと定着が図れるような作りになっている。逆に導入の部分も、小学校からの流れ、これはほかの教科も同じなのですけれども、そこら辺を意識したつくりになってきて、問題解決、問題を捉えて、考えて進んでいくというような解決型の学習につながっていくような部分があるかなと。あと、地図でも定評のある会社さん、地図が見やすく出ているなど。これ甲乙つけがたいと思うのですけれども、どちらかと言うと帝国書院さんのほうを推したいなど。迷っているところではありますけれども、一応そのように思っています。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。

○【猪熊委員】 私も順番つけがたいところなのですが、東京書籍さんと帝国書院さん、いいなと思っております。東京書籍のほうでは、まとめの活動とか、みんなでチャレンジなどで話し合いを持つ活動が書いてありまして、そこでの発表の後、さらに探求課題を解決しようということに取り組むことができ、学びが深められるのではないかなと思いました。あと、課題調査とか地域調査の章だと、情報収集から発表までの今どこを学習しているかということが、教科書の上部に記されていて分かりやすいかなと思いました。

帝国書院のものはやっぱり地図がきれいで、新しいものも使われておりますし、分かりやすいなと思いました。等高線の話なども詳しく書いてあっていいなと思いました。巻頭のこの教科書の学習の仕方というのが書かれていまして、それを見ると主体的な学び、対話的な学び、深い学びをどのようにしてやっていけるかということがすぐ分かり、地理の勉強をしていきやすいのかなということを思いました。以上のことで、この2つで、どちらかという意見です。

○【是松教育長】 操木委員。

○【操木委員】 私はやはり2社を考えてみました。今、出ていた東京書籍の学習の流れというのはすばらしいなと思いましたし、帝国のほうですけれども、今年から小学校の学習指導要領が新しく変わり、実際に進められているわけなのですけれども、地図をすごく大事にする、社会科ではね。3年生から地図帳を持たせるようになりまして、その地図がすごく社会科のベースになっているということで考えると、地理的な見方、考え方を働かせるという、それがこの地理分野の目標ではあるのですけれども、そこに地図がすごく入ってくるという意味で、さすが地図に詳しい会社の教科書だなと、そういうすばらしさを感じたのです。ただ、今度は社会科の教科書としてどうなのかと考えてみると、地理というのは地図を学ぶわけではありませんので、そういった地理的な見方、考え方という学習の流れからいくと、東京書籍のほうがいいのかなと、そんなふうに捉えました。以上です。

○【是松教育長】 大野委員、お願いします。

○【大野委員】 東京書籍でクイズ、確か名前は上級編を作ろうというタイトルだったと思うのですけれども、その興味を持たせるような流れが面白いかなと思いました。小学校で学習した内容を軸にこういった上級編を作っている、その過程において地理に対する興味が湧くのかなという感想を持った次第です。東京書籍を推したいと思います。



○【是松教育長】 私も確かに東京書籍、帝国書院ともにいい教科書だと思って迷っているところです。広い視野に立ってグローバル化する世界、その中に位置する日本との関係を地理的事象から理解、認識するということが必要だと言われています。何よりもそういう意味では分かりやすい写真やイラスト、表など視覚的な資料が大変大切なのかなと思っています。そうしたところで東京書籍、帝国書院とも、資料、写真、イラスト、非常にいいものがたくさん載っているなということがございます。特に帝国書院のほうは資料、文章との表現が大変見やすくいいなと思ったところです。

一方、東京書籍のほう、大変すばらしい資料、写真、イラスト、あるいはレイアウトもよく配慮されているのですが、いつも思うのですが、少し資料の量が多いのかないつも思っています。地理の授業でこれだけのものをしっかり使いこなすというのも、ある意味大変なのかなと思いつつも見ているところですけども、東京書籍、帝国書院とも、正直甲乙つけがたいなところがございます。そうは言ってもどちらか1つにしなくてはいけないということなので、大野委員が東京書籍を推されていますので、全体的に全員が挙げられた中で、共通するのが東京書籍ということになるのですが、いかがでしょうか。東京書籍ということでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 それでは社会の地理的分野については東京書籍を採択することでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 では、社会の地理的分野は東京書籍を採択することといたします。

続いて社会の歴史的分野に移ります。何かご意見はないでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 歴史は出されているところが増えまして、7つの会社さんが教科書を出されています。この中で特に今回、山川出版さんが出されました。ちょっと注目、多分高校の教科書を中心にやられているのかなと、少ない知識ではそんな印象を持ちまして、そういうふうに見ると内容的にも、ほかの会社さんと比較してみると、中学校の教科書らしさよりはしっかりと内容を深めるような書き方になっているのかなということも思いつつも、今後考えていく高校、小中のところのつながりなのですけれども、中高のつながりみたいのも意識をしていく必要があると、こういう教科書会社さんが入ってくるということ、これは私が個人的に勝手に思ったことなのですけれども、そんなことを感じました。ちょっと難しいのかなという印象は持っているところです。

歴史は今のようなことも含めて、様々なポイントが歴史の中におかれていて、何をどういうときに学んでいくのか、いろいろな視点から見る必要があること。地理とのつながりも当然ですし、中学校ですので、時代を理解する、今どんな時代なのだろう、日本の中だけでもそうですし、それがアジアであったり、世界的な部分の広がりみたいなのもしっかりと学んでいくべきかなと思っております。その中でそういうことをポイントとして見ていったときに、どういう部分が分かりやすい、伝えたい意図が伝わりやすい教科書かと思ったときに、2社さん、東京書籍さんと帝国書院さんと2つ見させていただきました。帝国さんのほうは先ほどの地理の工夫もあるので、資料が見やすく充実をしっかりしていて、地図だけではなくていろいろな資料も充実しているなど、いろいろな多面的な部分、多面的、多角的に考えてみようというところがありまして、いろいろな人の意見がこの場面場面に出ている、赤徳浪士の討ち入りのところとか。見方としてはこういうのが見られるよみたいなの、すごく面白い視点だなと思いました。

東京書籍さんは今現在も国立で使っている教科書ですけども、しっかりと問題点を捉えて、ポイントを説明していて、しっかりと教えやすい部分かなと。あとチェック・アンド・トライというのが本当に見

やすくポイントが出ているようなこととか、まとめの活動などしっかり工夫されているというような気がしました。

全体を通して、改めて東京書籍の教科書がいいのではないかなと思いました。以上です。

○【大野委員】 歴史は日本史が中心で、世界史はどうかというと、日本史から見た背景としての世界史という描き方をどの教科書もされています。したがってボリュームはずっと日本にスポットを当てたところの歴史が多いのですけれども、だから、ちょっと背景としての世界史がどう描かれているのかということに視点を持っていったのです。大体多くの教科書が西ヨーロッパの成り立ちから十字軍、中世都市に入るところもあるのですけれども、その年代の700、800年あるいは1000年というのかな、非常に長い時間を大体日本史における背景ですから、大体2ページでまとめているのですね。ヨーロッパにおける700、800年から1000年に及ぼんとするところを2ページでどうやってまとめるのだと思ったその視点で見たところ、私は東京書籍が非常にまとまっていると思いました。つまり、イスラムの影響が非常に大きくて、現地に行ってみると日本で思うよりもイスラム文化の影響が大きいということが如実なのですけれども、そのことが文章の中から酌み取れるような流れになっていて、私はそういった意味で東京書籍を推したいと思いました。

○【操木委員】 歴史分野ということで、小学校での社会科とのつながりといいますか、社会科小学3年生から学ぶのですけれども、そういったつながっていくということ考えていくと、1つずつ分かりやすいという意味では教育出版社を感じました。それからもう1社、東京書籍のほうは今度同じ中学校の中での、地理分野、それから公民分野とのリンクといいますか、関連性といいますか、そういったところを分かりやすく言っているということで、どちらもそれぞれのよさはあるなということで、この2社を選択してみました。以上です。

○【猪熊委員】 私は東京書籍と帝国書院がいいかなと思いました。東京書籍さんは先ほど地理のときにもお話ししたのですけれども、多分社会3教科とも教科書の構成というか、流れみたいなものは同じようになっていて、導入の活動とかまとめの活動とか、その後の探求課題という辺り、同じような構成になっていますので、先ほど言ったように学びやすいかなという感じがいたしました。特に歴史では、最後探求課題解決するところでは、いろいろな形のチャートを使っていて、よりみんなに分かりやすくという感じがするのかなと思いました。

帝国書院のものでは、タイムトラベルという見開きの時代の絵があって、昨年小学校の教科書を見たときにもそういう絵がすごくきれいに書いてある会社さんがあったのですけれども、小学校っぽいかなという感じがしないでもないですが、とても分かりやすくきれいな絵になっているので、イメージはとてもつかみやすいかなと思いました。あとはいろいろな資料の写真がとてもきれいで分かりやすいかなという感じがいたしました。帝国書院さんは教科書の右はじが今、学習している時代が分かるようになっていて、東京書籍さんは下にそれがあるので、私はどちらかということ右側にあったほうが、すぐ分かりやすいかなという感じがいたしました。以上です。

○【是松教育長】 歴史ですけれども、個々の歴史的事象、つまり歴史の中で起こったことについて認識するということ、それにとどまらずその事象を引き起こした歴史の大きな流れ、あるいは時代的、社会的背景をしっかりと理解させて、その事象について多面的、多角的に考察させ、判断させていくということが必要だと言われていています。そうした学びを助けるための記述や構成、資料が行き届いた教科書がふさわしいと思いますが、私は東京書籍がそれに一番ふさわしいと思いました。

帝国書院あるいは教育出版社等の評価もありましたが、各委員とも東京書籍という名前が挙がっている

ところでございます。社会の歴史的分野については東京書籍でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【**是松教育長**】 それでは、社会の歴史的分野については東京書籍を採択することといたします。  
続いて社会の公民的分野に移ります。ご意見をお願いします。

猪熊委員。

○【**猪熊委員**】 どの教科書にも書いてあったのですけれども、公民という分野は社会科の中の地理や歴史の学習の集大成としてある。自分が勉強している頃には全く気づかなかったのですが、今回読ませていただいて分かりました。そういうところからというもの変なのですが、教育出版さんと東京書籍さんがいいかなと思いました。教育出版は、巻頭に公民の学習を始めるに当たってということで、みんなで描く持続可能な未来予想図というのがあり、SDGsのことが書いてありました。つながりを気づかせてくれる感じがありまして、さらに持続可能な未来のあり方について自分なりに考えていけるという、学習の方向性が分かりやすく書かれているかなと思いました。

東京書籍さんは、先ほどの歴史のところでも言ったのですけれども、やっぱり流れが分かりやすく、学習が分かりやすいかなというところがありましたので、いいかなと思っております。以上です。

○【**是松教育長**】 いかがでしょうか。

山口委員。

○【**山口委員**】 今、猪熊委員が言われた、大体最終学年で勉強していく格好になるのかなと思いますけれども、それまでの地理とか歴史の学んだことを生かして、その他、自分が生きていることをベースにしたところの話ですので、そういうところを考えながら進めていくのかなと。あと世界的な事柄、様々あると思います。

ちょっと注目したのは、この中にどういうポイントが書いてあるか。東京書籍さんはインクルージョンについてのコラムがありまして、ほかの会社さんはあまり触れていなかったかなと思うのですけれども、国立市が全体として推し進めようという考え方、学校教育法ですけれども、誰でも生きていくことができる、そういう部分の社会を推し進めていきたいと思いますことが触れてあるということ自体はちょっと注目をしてきました。

教育出版社さんは人権とか平和に関して、しっかりと問題点を含めて、いろいろな問題点が当然あるわけですね。今、ちょうど本当にコロナで、起こっている事柄というのが、いろいろな問題点が浮き彫りにされている状況であると思うのですけれども、そういうところにも向き合うという視点で書かれたところと、もう1つ、誰もが生きづらさを感じない社会について考えようという課題ですね。それが出ている、この生きづらさを感じない社会、裏返すと今、生きづらさを感じていることが問題になっている部分があるわけですが、そういう部分の視点を持った問いを発しているということに非常に引きつけられた部分があります。

全体として各会社さんいろいろ工夫されて作っているのですけれども、教育出版さんの教科書を推薦したいと思います。以上です。

○【**是松教育長**】 大野委員。

○【**大野委員**】 導入として、ルックというものがあって、そこで問題を提起して、そして、流れとしては確認して、表現して、考察をして自分の言葉で説明しようという流れになっているところで、教育出版がよろしいのではないのでしょうかと思います。1つだけ具体的に言うと、例えばルックというところだと、国会の会期中は原則として逮捕されない特権があるというところがばーんと載っていて、そうするとやっ

ぱり生徒は、どうして逮捕されないのだろうという疑問が湧いてくると思うのですね。そんなような導入の仕方がよろしいのではないのでしょうかと思いました。教育出版を推したいと思います。

○【操木委員】 私は教育出版とそれから東京書籍、この2つを見てみたのですけれども、先ほどからお2人、3人が言われているように、社会科の集大成というお話もあったのですけれども、小学校3年生から始まった社会科が中学校3年生まで、社会科全てのトータルの目標が公民的資質の基礎を培うことなのですよね。ですから、すごく公民的な資質と培う、公民のところは大事だと思います。おっしゃるとおり、集大成である仕上がりではないかと思います。また、高校へもつながってくる大事な公民の学年ではないかと思います。そうした場合に、東京書籍の場合は資料とたくさんあって、すごく丁寧にできています。ですから、ある意味では教科書だけで完結するというところもあるのですね。でも、それでいいのかと。逆に教育出版社を見ますと、今、ルックの話も出ましたけれども、読み解こうとか、呼びかけて子どもたち、生徒、中学生が学習に向かうその引き出しを持っているなど感じました。そういう意味で、また調査委員会の資料の中にもあるのですけれども、小学校のことだとか、それから他分野、他教科との関連とかを明記されているということで、やっぱり集大成とか、まとめりだとか、社会科の最終的な公民的資質の基礎を培うという教科書としては、教育出版かなと思います。以上です。

○【是松教育長】 私は公民的分野というのは、現代の政治、経済、社会の仕組みを知って、子どもたちが担うこれからの将来の社会のあるべき姿について、多面的、多角的に思考がなされることが必要だと思っております。そうした中で日本社会のあるべき姿といいますと、やはり今後国民の総意に基づいて決めていくのが憲法でございますけれども、これからの生徒たち、行く行くは近い将来憲法についての考えを個別に問われていく可能性があるのかなと思っております、そういった意味では各社の憲法についての記述というのは非常に興味を持って読ませていただいたところです。そうした中で、その点について限って言えば、帝国書院がいいのかなと思ったところです。非常に立憲主義と民主主義の国家権力についての関係が分かりやすく書かれていて、その中で憲法の役割が何であるのかということをやうまく説明してあります。また、他社にはないのですけれども、個別的自衛権と集団的自衛権のしっかりした区分け、それから自衛隊の歴史のようなものが資料としてついておりまして、この部分については、考えを深めていくのには非常に興味深い教科書かなと思ったところです。

そういった意味で、私は帝国書院がいいなとは思っているのですけれども、教育出版がいいというお声のほうがほとんどの方でありましたから、あと東京書籍という点もありましたが、4人の委員さんについては教育出版が共通して推されている内容となっていることです。私は教育出版、非常に、公立中立的に双方向からの考えが必ず示されているという、文面上ですね、そういう面では大変公立中立的な部分があっていいのかなとも思うのですけれども、ちょっと特徴的だったのが平和主義と自衛隊の在り方について、この出版社だけは4ページを費やしてしっかりと書き込んでおります。それ自体は素晴らしいことだと思うのですけれども、その中に使われている資料に、果たしてこれで子どもたちに公平な判断ができるだろうかという、ちょっと首をかしげるような部分もございました。しかしながら、そうした資料をしっかりと扱っていくこともある意味必要なのかなとも思っておりますので、私も皆さんと同様に帝国ではなくて教育出版を最終的には採択しようと思っておりますけれども、できるだけ教科書の資料等の取扱いについて中立公正な立場に立って、生徒が自らの的確な判断が下せるような指導に活用できるように取り扱っていただきたいということを期待しているところでございます。

それでは、皆さん、教育出版ということによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは、社会の公的分野については教育出版を採択することといたします。

続いて社会、地図について。地図は2社だけですので、端的にどちらかということでおっしゃっていた  
だくしかないのかなど。

山口委員。

○【山口委員】 地図は帝国、大きさもいいなと思ひまして、今、ずっと使っている部分で使いやすさと、  
見やすさというのはやっぱり感じる部分があります帝国書院がよろしいと思ひます。

○【操木委員】 帝国を推薦します。ユニバーサルデザインフォントの全面的採用だとか、インクルーシ  
ブ教育に配慮しているものと、あと江戸時代の五街道が載っていたり、歴史的なものも一緒に見られるか  
ななどということ、いいのではないかなど、そんなふうに思ひます。以上です。

○【大野委員】 帝国を推薦します。以上です。

○【猪熊委員】 私も帝国書院で、見やすいし、写真とか資料も豊富に載っているのでもいいと思ひます。

○【是松教育長】 私も、確かにサイズは大きいのですけれども、地図ですから大きいほうが見やすいの  
かなと思ひますし、QRコード等でデータも呼び出せるのは非常にいいのではないかなどと思ひておりま  
すので、帝国書院でよろしいかと思ひます。それでは地図は皆さん、帝国書院ということですので、帝国  
書院を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは社会、地図については帝国書院を採択することといたします。

続いて、数学に移ります。いかがでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 数学は小学校からのつながりと高校へのつながりというところを見て考えなければいけ  
ない部分と、やっぱり難しくなってくるところで苦手を意識してしまう子どもが出てくる、生徒が出てく  
るといふところとか、そこら辺のところと国立の生徒の状況と合わせて教科書を選んでいくことが必要か  
なと思ひながら、見させていただきました。全体的に見て、その中で全部で7社出しているの  
ですけれども、現在使っております東京書籍さんと大日本図書さん、あと啓林館さんちょっと見させて  
いただきました。啓林館さんは巻末に自分で学ぼうというパターンの違うものがついて、面白いなと思  
ったのですけれども、工夫の跡が見られるのですけれども、使いやすいのかどうかというのは、これはやっ  
てみないと分らないと思ひました。

大日本図書さんは、しっかりと考えさせるつくりになって、数学の世界へようこそということで、考え  
方等々が、流れですね、どういうふうを考えていったらいいのだよというのがしっかりと分かるような作  
りになっている部分がありました。問題もすごくたくさんありまして、いろいろな対象の子どもたちに対  
応できるのですけれども、このたくさんあるということ自体がマイナスに働くか、要するに全部やりきれ  
ない可能性もあるところというのがどうなのか。東京書籍さんはこれに比べると問題量も適当なかなど  
と思ひまして、また、内容的にも様々な対象の子どもたちに対応できる。全体的にも分かりやすく、バラ  
ンスよく作られているということで、東京書籍さんを推薦したいと思ひます。以上です。

○【是松教育長】 ほかはいかがでしょうか。

大野委員。

○【大野委員】 補充問題というのが充実しているのかなどと思ひました。そして、審議会の報告でも扱い  
やすいという内容を読み取れますので、東京書籍ということを推薦したいと思ひます。

○【操木委員】 私は、東京書籍と学校図書を推薦したいと思ひます。東京書籍は審議会の資料の中にも

ありますように、習熟度別クラスの授業コースに考えやすいという内容構成になっているところがいいかなと思いました。それから学校図書のほうは、学習指導要領が変わったということをしごく意識して、生徒の疑問で学習をつないでいくという、そういうコンセプトみたいなものを感じるのですよね。また、途中で自己評価ができるようになっていたりとか、数学が役に立っているのだという、そういうことを実感する、そういう場面が多いような感じがしたのです。いわゆる、算数が数学になって難しさが出てくるのではなくて、算数から数学になったことによる充実感というのですか、そういった扱い方がすばらしいなと思いました。順位をつけるとすれば学校図書、東京書籍という順番になります。以上です。

○【猪熊委員】 私も今、操木委員がおっしゃっていた変わったということをしごく意識して作られているかなというところ、思いました。今度から2年生に入ってきた箱ひげグラフがあるのですけれども、その書かれていることが高校の範囲のこととかも載っていたりして、一番活用が多く載っていたなと思いました。あとは1年生に入って数学を見ていて、最初に結構説明が多いなというような項目として、正負乗法というのですか、マイナス掛けるマイナスがプラスになるという部分のところの説明などは、大日本図書さんとか学校図書さんが分かりやすく書かれているなと思いました。大日本図書さんでは、MATH EFULというのですかね、高校の内容なども載っていたりして、ほかに基本問題とか補充問題なども多く載っているので、いろいろな習熟度の生徒にも対応できるのかなということをおもいました。ただ、一番は東京書籍さんがオールラウンドというか、全体的に見れば一番使いやすいかなと思いました。以上です。

○【是松教育長】 私ですけれども、個人的なお話になりますけれども、数学が大嫌いな中学生時代を、あるいは高校生時代を過ごしました。本当に数学は1つつまずくと全然楽しくもなくなって、何が何だか分からなくなって苦勞する一番の教科だと思えます。そういう意味では、学習指導要領がいうように数学的活動の楽しさを分からせることという、数学というのは楽しいんだよというのを分からせてもらうような指導をしてもらわないといけないのだろうなと思えます。そういった目でざっと教科書を見ると、比較的私のような者でも教科書をめくりながらこれだったらそんなに嫌いにならないというか、少しはついていけるかなと感じたのが、総合的に東京書籍ということでした。

数学については学校図書を操木先生が推されておりますけれども、全体的に東京書籍の採択希望が強いようです。いかがでしょうか。東京書籍ということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは、数学については東京書籍を採択することといたします。

続いて、理科について伺います。どうでしょうか。

猪熊委員。

○【猪熊委員】 私は啓林館がいいかなと思いました。啓林館のものだけが各学年必ず最初の章が生物、遺伝とか、生物のような項目から入っていて、生徒もいきなり物理系の計算とかから入るよりは、4月学年が変わって、身近な感じがするような題から入っていくのもいいのかなと思いました。発電の説明や化学式についても詳しく丁寧を書いてありまして、化学式のところも式だけではなくて表もつけているので、分かりやすいかなと思いました。電流を通したときの豆電球の明るさの写真も啓林館の写真が一番明るさの違いが分かるものが載っていたので、そういう意味で分かりやすいかなと思いました。

あとは、科学的視点で災害が学べるようになってきているので、今、自然災害が多いので、理科のところでも学べるのもいいのかなと思いました。以上です。

○【是松教育長】 いかがでしょうか。

大野委員。

○【大野委員】 啓林館を推したいと思います。理科嫌いという言葉が出てきてもう何年たつのでしょうか。相当昔でしょうか。今は言われているかどうか分からないのですけれども、啓林館の場合、日常生活から入ってくる、日常生活の導入で生徒に興味を持たせるような、そういう流れになってくるというところがいいかなと思います。また、力試しという項目ではかなり充実したまとめができるのかなという感想を持ちました。写真も花の図鑑がとてもきれいでした。

大日本図書の花の図鑑も、私としては図鑑を見ているようで、やや小さめなのでしょうか。しかし、その色調というかトーンは大日本図書のものも好きでした。

結論から言いますと、最初に言ったように啓林館を推したいと思います。

○【山口委員】 理科、内容が深められ始めて、生物の分野とか様々分野ごとの深め方も出てくるような感じなので、本当にそれぞれに興味を湧いて深めたいなと思えると面白いのでしょうかけれども、そうならないとつまらなくなってしまう。考えることの楽しさというのは仮定を作って実験をして、また考えてみたい流れですね、そういうようなことをうまくスムーズに子どもたちに対して、そういう工夫を国立市はずっとやってきていると思うのですけれども。その様なことがやりやすい教科書という点で見ると、皆さんおっしゃられたように啓林館さんののが分かりやすい仮定になっているのかな、深められると思います。

もう1つ理科の場合、実験とかがあるので安全なことというのがやっぱり重要なポイントで、それは場面場面で先生方が伝えていくのですけれども、例として教科書もそのことをしっかり意識している、全部の教科書は意識しているのですけれども、啓林館さんはしっかりポイントごとにくくられているかなと思います。審議会の報告もしっかり読んでみると、啓林館さんの部分が使いやすいという形の記述が多いような気がします。啓林館の教科書を推薦したいと思います。

○【操木委員】 私も啓林館は悪くないと思いますし、皆さんおっしゃったような興味、関心、工夫、それから理科に向かう学びの意欲を引き出すものだと思います。あと1つは、学校図書のやっぱり前章のところに、できるようになりたい目標ですかね。分かるのではなくて、調べるのではなくて、自分にとって何ができるようになりたいかという、そういう目標設定で学習に取り組んでいて、そして振り返りができるようになったかという、こういう学習の流れというのが理科的に何かを調べて、そしてまとめて、分かったという、それではなくて、自分にとって何ができるようになるのかという、そういう捉え方はすばらしいなと思ったのです。ですから、啓林館と学校図書のどちらがというより、2社を推薦したいと思います。

○【是松教育長】 私はまず東京書籍はちょっとやっぱり形がA4の変形ということで、縦に長すぎるのかなと思います。また、単元が単純に1～5とただインデックスをつけてあるので、これだとインデックスの意味があまりないのかなと思いました。学校図書については活字がちょっと小さいのかなという気がします。それから1つ1つの教科書にホワイトボードをつけていただいているのですけれども、これはあえてつけていただかなくてもいいのかなという感じがします。ホワイトボード、学校でも必ず使用しますので、教科書にわざわざつけるほどのものではないのかなという感じがしました。教育出版は残念ながら解説自体があまりにも少なく、量的にも乏しいかなと思います。

そんなことでいくと、大日本図書と啓林館が残ったのですけれども、大日本図書はレイアウト、記述、非常にスッキリしていて読みやすい内容になっています。啓林館のほうも巻末に探求シートというのがあって、この探求シートが果たして活用できるのかどうかというのは気になったのです。それなりに専門の先生に聞いてみたら、こういった探求シートはある意味振り返り等、あるいは考えを深めるのに使えるよ

という評価でしたので、それはいいのかなと思いました。

先ほどインデックスの話をしたのですけれども、啓林館の場合だけ、生命、地球、物質、エネルギー、環境というインデックスがしっかり教科書についているということもございました。そんなことで大日本図書か啓林館というところが私もいいのかなと思いました。

総括させていただきますと、操木先生、学校図書ということでもございましたけれども、啓林館も2番目に挙げられております。そんなことで総体としては啓林館ということの採択でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは、理科については啓林館を採択することといたします。

続いて音楽について、音楽は一般と器楽合奏に分かれています。まず音楽一般についていかがでしょうか。

大野委員。

○【大野委員】 教育芸術社を推したいと思います。全体的に載っている曲がやや教育出版を上回って、質的にもいいのかなという感想を持ちます。あと、ユーミンもあったかな、出てきたり、ボレロが出てきたり、大変多角的でいいと思います。すみません、器楽のほうか一般か頭の中でごっちゃになっているのですけれども、国立では琴を全校で勉強するそうで、その琴に対する指南書としての教科書が教育芸術社のほうがいいという話も聞いておりますので、教育芸術社のほうを推したいと思います。

ただ、1つだけ教育出版でヨハン・クリーガーという人のメヌエットを挙げているのですけれども、これはなぜか一般的にはそんなに知られていない曲なのですが、教科書の中だとロングランというか、ずっと昔からある曲で、これは大変いい曲だと思います。なぜか学校社会だけでしかから広まらないというか、そういう不思議な曲の感じがするのですけれども、ただ、そういう意味では名曲で、これをずっと取り上げているのか、実は私の中学時代もこの曲を習ったので相当昔なののですけれども、その頃からずっとあるのか、それとも途切れたのか分からないのですけれども、この1曲はいいなと思います。全体的には教育芸術社のほうを挙げたいと思います。

○【山口委員】 教育出版で魅力を感じたのは教科書の名前です。「音楽のおくりもの」というのは何かわくわくする感じがあるなと名前のところを感じた部分であります。全体的に見て現在も使っている教育芸術社さん、審議会の報告もこちらのほうを推すような方向で頂いていると思います。教育芸術社さんを推薦したいと思います。以上です。

○【操木委員】 審議会の報告の中にもあるのですけれども、楽器の構え方、奏法、発声についての正確に掲載されているというところで、中学生のこの時期の正しい身につけ方ってすごく大事で、一生を左右するのではないと思うぐらいですので、やっぱり力を入れているということは教育芸術社のほうがいいかなと思いました。それから、奏法については今、大野先生がおっしゃったとおり、両社とも扱っていますが、扱い方としてはより多いかなと思いました。それから、音源的なものは少なかったり、あまり音源がよくないという話も聞いているのですね、教育芸術社のほうの。音楽の音源は2次的なものではなくて、やっぱり生のきれいな音をできるだけ聞かせてあげたいと思いますので、そこに頼らなくてもいいかなと思っていますので、あまり音源については気にならないかなと思いました。

それから、山口委員がおっしゃったように、私も「音楽のおくりもの」という教育出版のこのタイトルはすばらしいと思っています。どちらもいいと思います。

○【大野委員】 すみません、1点ちょっと。前の教科書、今回改定してなくなったと思うのですけれども、前の教科書の1のところパフというのが載っていたのです。これはピーター・ポール&マリーと言



って、「花はどこへ行った」とかそういうのにつながって、結局パフの歌詞も単なる子どもに対する歌詞なのだよという説もあるのでありますが、その背景には反戦歌なのだよという説もあって、「花はどこへ行った」は完全にその詩は反戦歌なのでありますが、それが取り除かれてしまったのがちょっと残念です。やっぱりフォークソングのあの時代、非常に大きな世界中がその潮流でしたし、大きな時代だったと思うのです。そういう時代を知るという意味でフォークソングの走りであるパフとかピーター・ポール&マリーとか、その辺を教材として取扱うのは歴史的に必要なことではないのかなと、そんな感想を持ちました。

○【猪熊委員】 私も一般と器楽と自分が思っていたのが一緒になってしまっているかもしれない、ずれたことを言うかもしれないのですが、私は教育芸術社がいいと思います。音楽のことはあまりよく分からないので、内容についてあまりどっちがというのは分からないのですが、生徒に向けてのコラムのようなページで音楽はルールを守って楽しもうということが書かれていたり、音楽史が書かれていて、そこの中のポピュラー音楽とか演歌部門とかアイドル部門とかの歴史も書かれていて、代表的な方の写真も載っていて、割と中学生が知ってそうな人選がしてありました。そういう面白いところがあると、音楽があまり得意ではない子どもでも教科書に目が行きやすいかなと思いました。

もしかしたら器楽のほうだったかもしれないのですが、ボレロと越天楽の音符が載っているところに、今、演奏している楽器の絵が書かれていて、それを見ていると演奏しているところとか、曲とかが全て想像を膨らますことができているのかなと思いました。以上です。

○【是松教育長】 私は音楽一般というのは、どちらかというと鑑賞のための教科書かなと思っておりますので、鑑賞を通じて音楽に親しみ、また楽しむ心を育てるということ。また、音楽というのは非常に幅広いジャンルがあるのだという存在も知ってほしいなと思っております。そういった意味で見ますと、教育出版はどちらかというと従来型の音楽教科書かなと思っておりまして、内容が少し固くて、音楽の楽しみや高揚感を沸き立たせる素材に乏しいかなと思います。

一方、教育芸術社のほうなのですが、先ほど猪熊委員や大野委員も少し挙げられましたように、ボレロなどの解説も非常に楽しい、わくわくして、よく情景が分かる解説になっておりますし、やっぱり圧巻は58から63ページ、この6ページを割いて、世界あるいは日本のポピュラー音楽のジャンル分けがされているところだと思います。学校の音楽というとどちらかというとクラシックを中心に固いイメージなのですが、実際子どもたちがほとんど親しんでいるのは大衆音楽であり、こうした一般的な、ポピュラー的なジャンルが主流なのです。そのジャンルについてロック、ジャズ、ブルース、カントリー、それからR&B、レゲエ、ヒップホップ、日本編になりますと、浪曲から始まって歌謡曲、流行歌、Jポップ、フォーク、ニューミュージック、GS、GSが分からない人いるかな。グループサウンドの略なのですが、それからアイドルソング、アニソン、そういった幅広く大衆音楽について説明をしております。まさか中学校の音楽教科書に広沢虎造とか藤山一郎、笠置シズ子、並木路子、美空ひばり、果てはももいろクローバーZまで出ているとは思いませんでしたので、非常にそういった面では幅広い音楽ジャンルを子どもたちに伝えようという意欲がすごく見えております。

また、音楽のメディアも当然ながら変化してきておりまして、レコードから始まってカセットテープ、携帯音楽プレーヤー、CD、MD、今やMP3の音楽配信というような形で、音楽メディアも変わってきているという、この変遷もしっかり書かれているのです。そういう意味では本当に音楽を幅広く知るといえる意味では教育芸術社が素晴らしいなと私は思った次第です。

そんなことで2社しかございませんので、皆さん、教育芸術社に異存はないということだと思っておりますので、教育芸術社ということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは、まず音楽一般については教育芸術社を採択することといたします。

続いて音楽の器楽、合奏についてお願いします。

大野委員。

○【大野委員】 同じく幅広いジャンルからの曲が挙げられていると思います。ビバルディの隣にガーシュウィンがあり、またテレビで有名な笑点のテーマが出てきて、海の見える町と、ありとあらゆるものがずっと出てきて、いずれも合奏しやすい曲とだと思えますし、教育芸術社がいいと思います。多分「I Got Rhythm」は今回初めて出てきたのかなと思うのですが、ガーシュウィンの代表的な曲なので、この辺を取り上げたというのも特徴的かなと思います。以上です。

○【是松教育】 ほかにいかがでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 審議会のご報告にもあるのですが、いろいろな楽器、打楽器も細かく教育芸術社さんのほうが載っているということで、国立市は琴の授業に力を入れているのですが、大野委員もおっしゃられたのですが、そういうのにも適しているのではないかと思います、教育芸術社の教科書を推薦します。以上です。

○【猪熊委員】 今、山口委員がおっしゃったこととほとんど同じですが、教育芸術社のほうが楽器の図鑑など、いろいろな種類の楽器も載っていますし、とても分かりやすいかなと思えました。国立は和楽器として琴を習っているので、そちらのほうの解説も詳しいのかなと思えました。以上です。

○【操木委員】 私は両方ともいいとお話をしたいと思うのですが、教育芸術社さんの今、大野委員からも出ましたように、幅広い取扱いをしているということで、また新たなチャレンジをどんどんしているということはすばらしいなと思います。それから、教育出版のほうは、やっぱり生徒が自分でこの教科書を使って音楽を楽しむ、楽しみやすいという、そんな構成になっているかと思うのです。中学校の器楽の教科書はどの程度授業で使われているかどうか分かりませんが、実際に部活の吹奏楽であったりとか、いろいろな他の部活とかいろいろなことがありまして、いわゆる器楽合奏というのがどの程度なのか分かりませんが、トータル的にやるというより生徒がぱっと器楽の教科書を見て、ちょっとやってみようかなと、そういうきっかけになるような構成というのはすごく大事だと思うのです。音楽って例えばCDを聞いても楽しいのですが、CDよりやっぱり生の演奏を聞いたほうがもっと楽しいですし、演奏を聞くよりももしかしたら演奏をしたほうがもっとすばらしさを感じるので、やっぱり自分の演奏につながっていくような、きっかけづくりになる構成はよくできているかなと思います。ですから、どちらもすばらしいと答えたいです。

○【是松教育長】 私はやはり教育芸術社がいいと思います。器楽ですから当然ながら音楽表現、音楽活動という形になるわけですが、例えばギターのところ1つ見ても、教育出版社の場合はクラシックギターにかなり照準を合わせてしまっているのです。ところが教育芸術社はクラシックギターだけではなくてフォークギター演奏やその奏法にも意識してコードの押さえ方であるとか、ストローク法、あるいはピックの持ち方まで言及しているという点があります。また、最初にギターコード表が載っているのですが、教育出版のほうは本物の手を写真に撮って、ギターコードの押さえる位置というのを表示しているのですが、これ以外と分かりづらいのですよね。ギターをお弾きになってコードの練習をされた方は分かると思うのですが、実際の写真で写しているよりも、教育芸術社のようにイラストで書かれているほうが逆に分かりやすい点があります。そんなようなことにも配慮されているということで、

私は、器楽も教育芸術社がいいと思いました。

それでは皆さん、教育芸術社ということで統一されているようですので、音楽器楽、合奏については教育芸術社を採択することでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは音楽器楽、合奏は教育芸術社を採択いたします。

続いて美術についてご意見を伺います。

山口委員。

○【山口委員】 美術の教科書、3社さんから出していただいています。美術は実際教科書を見ても、見ただけで心が和んできたりとか、そこに出ているもののよさとか、そういうのを感じることができて、そういう部分では質とか量とか見やすさとかがポイントになってくるのかな。それぞれの会社さんとも、生徒の興味を本当に持って入ってこれるような工夫をされているなどというのを全体的に感じたところです。全般的な感想になってしまうのですが、その中でも日本文教出版さんが見やすさは一番で、折り込みというのですか、広げられるような部分が効果的に使われているような気もしました。迫力とかを感じることができたことで、日本文教出版さんがいいと思います。以上です。

○【是松教育長】 ほかの委員、いかがでしょうか。

大野委員。

○【大野委員】 私は日本文教出版と光村がいいなと思いました。両方いいと思いました。やはり、日本文教出版のほうは原寸大の資料が何点かありまして、これが面白かったのです。つまり同じ題材で光村もゴッホを挙げて、同じ挙げているのですけれども、光村のほうはいわゆる絵葉書みたいな感じになっていて、従来なのかなと思うのですけれども、原寸大にすると実際の筆のタッチが、もちろん部分的ですけれども見られて、これがとても迫力があって、あまり今までお目にかかったことのない、普通絵葉書サイズになって全体を見せようとするので、なかなかない試みだと思って感心しました。モネの作品もあったかな、原寸大で。そこがいいなと思ったところです。日本文教出版のほうです。

渋いなと思ったのは、福田平八郎の「雨」ですね。これは実際見たことがあるのですけれども、よくぞこれ中学の教科書で取り上げたなど。色彩の大変きれいなポスターですね。これを取り上げたのも注目に値するなと思いました。

一方で光村のほうでは、長谷川等伯を挙げていますけれども、この辺りは実に渋い、大変すばらしい作品だなと思います。光村のほうで「美しい」という文章でしょうか。谷川俊太郎が載っていました。美術に限らずほかの教科書でもやたら谷川俊太郎の文章がいっぱい載っていて、何でもかんでも谷川俊太郎という感じで、ここに谷川俊太郎のこの詩を載せる必然性があるのかなと思うところも正直あるのですけれども、この光村の「美しい」という谷川俊太郎の詩は適材適所といいますか、ここにこの詩があつてすばらしいなと思います。

今、いろいろ感じたところを言いましたけれども、最終的にどちらに軍配を上げるのかということになると、日本文教出版ということに私はなります。

○【猪熊委員】 私も日本文教出版がいいかなと思います。今、ほぼ原寸大の作品の話については大野委員がおっしゃっていたとおり、私もそのように思いましたので、そこは大野委員にお任せした感じで、違うところで感心したところは、QRコードで作品を見ることができるものもありまして、審議会の報告にもあるのですけれども、360度から作品が見られるというのがありまして、なかなか下のほうからとか、斜め下から見られないのですけれども、QRコードで見ると回って見ることができるので、これは多分作る

作品だったと思うのですけれども、そういうときにも下の角度からのことも注意したりできるのかなと思ひまして、そこもとても感心しました。日本文教出版がいいかなと思います。

○【操木委員】 私も日本文教出版を推薦したいと思います。美術の教科書ですから、作品がより美しく掲載されているということは当然なのでしょうけれども、それほどこの会社も皆さん頑張ってらっしゃって努力されているなど感じます。ただ、教科書ですから、この教科書を通して生徒たちが美術の制作に関わりたい、作品を作りたいと、そういう気持ちを沸き立てるような、そういった教科書がいいなといつも思っているのですけれども、日本文教出版の場合には生徒が自ら学びたくなる教科書ということをコンセプトにしているのですけれども、言語活動の場面とか載っているのですよね。私は昔、静かに絵を描きなさいと言ったのですけれども、集中して描きなさいと言った、そうではなくて話しながら描くとすごく想像力がたくましくなって、絵が広がってくるのですよね。だから、そういった見方を子どもたちの気持ちを揺さぶるような、そんな表現が出ていていいなと思いました。以上です。

○【是松教育長】 私も日本文教出版がいいと思います。開隆堂なのですけれども、光村図書や日本文教出版と比べると、近現代アーティストの作品が非常に多いのですよね。絵画よりも工芸や彫刻系のものの作品展示が多いということで、これはそうした趣旨なのだと思いますし、ある意味若い美術の先生方については、こういった開隆堂の姿勢というのは通じるところがあるのかもしれませんが、子どもたちが一般的に美術に接するというこの場ですので、あまり近現代アーティストよりもやはりそれなりの有名な古典的なアーティストもいいのですけれども、これまでの歴史の中で評価された作品というものをしっかり見せてききたいなと私は思います。そういった意味でどの委員もおっしゃっていましたが、やっぱり掲載作品や写真に非常に見応えがあって、レイアウトもいいということになりますと、まるで画集を読んでいるような感じがする日本文教出版の美術教科書がいいのかなと思った次第です。

それでは皆さん、日本文教出版ということですので、それでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 それでは、美術については日本文教出版を採択することといたします。

続いて、保健体育に移ります。

山口委員。

○【山口委員】 保健体育は非常にどの教科も重要なのですけれども、中学生という年代を考えたときに、一番人としての成長の中で様々な変化が起きる3年間の時期。男の子、女の子の違いは若干ある、そのことも含めてですけれども、体も変わってくる部分があるし、標準的なところですが、心の動きはすごく大きいところではないか。だから、いろいろな教科の勉強もその中で難しさが増していったりとか、奥を考えたりとかもできる年代。そのベースのところをしっかりと学ぶと。自分が一体どういう状況なのだろうかとか、気持ちの変化なのだろうかとか、しっかりとつかむことができるような教科、保健体育という教科だなということを感じました。あと、オリンピックが延期になってしまいましたけれども、スポーツが持っているよさとか運動することのよさみたいなこともしっかりと感じ取ることができることが非常に大切かなと思います。

全体を見て今現在も使っている学研教育みらいさんがよろしいかと思ひます。口絵等も充実して、最初のところに6項目か8項目ぐらい載っているの、各教科書会社さんにも載っているのですけれども、一番充実しているなということもありますし、ポイントしては心の闇みたいところへのアプローチもそのところでしっかり出ているのは大きいなと思ひます。ほかの教科書会社さんもあるのですけれども、途中のところに出ていたりとか、若干それぞれのポイントが違うのですけど、私の中ではそのことというの

はすごく大きい部分が、あとは審議会の先生方の報告を見ていると、保健分野から入るよりは体育の分野から入ったほうが授業としては進めやすいのだという部分がありましたものですから、そのことも含めて学研教育みらいさんがよろしいのではないかと思います。以上です。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。

猪熊委員。

○【猪熊委員】 私も学研教育みらいさんがトータルとしていいのかなと思いました。山口委員もおっしゃっていたのですけれども、体育分野から入ったほうが生徒のつかみがいいということも審議会報告のほうで先生がおっしゃっていましたので、いいのかなと思いました。あとは東京書籍さんだけ、こういうコロナがあるということを全く思わないで、コロナの記事が載っているわけではないのですけれども、スペイン風邪のときのセントルイス市の緊急事態宣言の話が載っているのですね。緊急事態宣言という言葉、今、本当に誰に聞いても知っている言葉になっているかもしれないのですけれども、この言葉が教科書に載っているというのが、あと4年間ぐらいこの教科書を使うと、これはスペイン風邪のときの話なのだけれども東京もそうだったねみたいなことで、みんなの中に残っていけるのかなということと思いました。

結構中学生だと何となく興味を持つ、性の特徴とか、受精の話とか、それぞれの会社さんで部分的に詳しいところは違って、それぞれだなということと思いました。トータルするとやっぱり最初に言いました学研教育みらいさんの教科書がいいかなと思います。

○【大野委員】 やや細かいことなのですが、学研の中に、142ページなのですが、嘉納治五郎の言葉として、日本には昔から最善の努力を尽くしている相手には敬意を払う習慣があるという言葉があるのです。それを聞いたアメリカ人が非常に感心したというエピソードが載っているのですけれども、誰か忘れたのですけれども、やっぱりオリンピックをする、スポーツをするというのは、他者に対するリスペクトであるということが非常に大切なことだと言っていて、私もなるほどなと思ったのです。やっぱりそういう精神的なこと、他者をどう捉えるかということが述べられていることは重要なことだと思いました。学研を推したいと思います。

○【操木委員】 結論から言うと、私も学研教育みらいを推薦したいと思います。体育理論と保健の順番については全部の会社が体育理論が先のような気がします。ほとんどが体育理論が前にあるということで、それは本当にやりやすいのではないかなと思いました。それから、学研の構成といいますか、学習の目標、課題をつかむ、考える、調べる、まとめる、深めるといったこの項目が全部統一されていて、しかも大体その量的なものが同じですので、非常に1回目の学びが2回目の違うまた分野の学びに生かされるというか、生徒側に立ったときに取り組みやすいのではないかなと思いました。

それから、心肺蘇生法の写真とイラストの両方を用いて、生徒が分かりやすく説明しているところ、それもいいかなと思いました。ということで学研教育みらいを推薦したいと思います。

○【是松教育長】 それでは、私も結論から申し上げますと、学研教育みらいがいいと思います。コロナウイルス禍の中で、特に保健体育の中の保健分野に係る健康安全についての理解というのはますます重要になってきていると思います。自らの身体や生命のメカニズム等、健康、安全保持に関わる情報、知識をしっかりと習得させるという意味で、学研教育みらいは非常に情報量が豊富であるし、解説も分かりやすいと思いました。

それでは、保健体育については皆さん、学研教育みらいということでございますので、それでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは、保健体育につきましては学研教育みらいといたします。

続いて技術・家庭の技術分野に移ります。いかがでしょうか。

○【大野委員】 第一印象がすごくよかったのは東京書籍です。第一印象がいいというのは変な言い方ですけれども、ぱっと見たときに写真が多くて見やすく、いろいろな作業の仕方が全く素人である私でも分かりやすそうな、そんな構成がされていたということでもあります。系統的に載っていて、授業の流れというのがやりやすいのかなという感想は持ちました。東京書籍を推薦したいと思います。

○【操木委員】 私も東京書籍を推薦したいと思います。特に注目したのは、やはりプログラミングの教育のことなのですがすけれども、皆さんご存じ、小学校でもプログラミング教育が必修化されたということで、今までの小学生を迎えての技術の授業と違って、単なる経験とか、小学生では経験とか体験とかいろいろなことに取り組んでくるのですけれども、中学校ではそれを受けてその問題解決に当たるプログラミング学習が中心になってくると思うのですけれども、その辺りの充実さを感じて東京書籍を推薦したいと思いません。

○【猪熊委員】 私も東京書籍を推薦したいと思います。ぱっと見たときには教育図書さんなどは実習のときに使いやすそうな別冊がありまして、その中に今、教科書にもグルーガンが載っているのだなと感心しながら見ていたのですけれども、そういう点では使いやすそうかなと思いました。しかしプログラミングのことについては、やっぱり東京書籍さんのほうが詳しくて、今、操木委員もおっしゃったのですけれども、問題解決のためのプログラミングを行うということをちゃんと章立てて書いてありまして、例えば冷蔵庫開閉チェックというようなことを行って、そして、そういうのを幾つも行った後、総合的な問題解決、例えば地震避難誘導システムなんていうことを考えていったりということで、最初は2進法の基本から書いて、もちろん教育図書さんのほうにも書いてあるのですけれども、本当にプログラミングの基本からずっと書いてありまして、詳しくていいかなと思いました。セキュリティ対策とか無線LANのことなども、今の中学生は教科書に書かれてなくてもみんな知っているのかもしれないのですけれども、その辺りのこともちゃんと書かれていて、巻末にプログラミング手帳もついていて、プログラミングの点で東京書籍さんのほうがいいかなと思いましたので、東京書籍を推薦したいと思います。

○【山口委員】 私も結論を先に言いますと東京書籍さんなのですけれども、技術の分野、やっぱり安全のところというのはポイントして入ってくるなど、いろいろな作業が入ってくるので。今のコンピュータの部分の安全も当然なのですけれども、それから分かりやすさというのですかね、写真とかどのように使っているのか。今も皆さん言われているプログラミングですね。教育図書さんは審議会の報告にもあるのですけれども、小学校と高校両方考えて、双方向コンテンツ、ほかの教科書に載っているのですけど、よりそこら辺を強くつないで意識して書いてあるのかなということがあるのですけれども、ここら辺はどんな状況が今後も変わってくる部分があるのかと思ひまして、こういうようなどんどん取り入れられてくるのだなと感じながら見ていました。

教育図書さん、写真が非常に多い、丁寧に出されて、ここまでやるのかなぐらいな、そんなよさがあったのですけれども、もう1つは別冊がついていまして、技術ハンドブック、これが使いやすいのか使いにくいのか、先生による部分もあるのかなということがちょっと疑問がついた部分です。東京書籍は全体的な安全に対する配慮、その他の進め方等、総合的にいいかな思いました。東京書籍を推したいと思います。以上です。

○【是松教育長】 技術・家庭というのは考えてみますと今回のコロナ、いわゆるステイホームという中ではある意味一番大切な教科にのし上がったのではないかなと思います。ずっと家にいて何があるかとい

うと、多くの方がホームセンターでいろいろなものを買ってきたり、D I Yショップへ行って家で何かやるものを買ってきたり、あるいは園芸をやってみたりとか、極端な話、インターネットでI C T技術を使いながら家で過ごすということで、これ全て技術・家庭の分野なのです。子どもによってはお手伝いして家事や料理なんかを家でお母さんやお父さんと一緒にやっていたということもあって、コロナのステイホームで一番重要な学科だったのだなと私は思っているところなのです。

今、申しあげましたように、ホームセンターやD I Yショップ、園芸店等であらゆる素材や材料が入手できる時代になりました。それを使っていろいろなものを作る技術もインターネットの動画配信の中で情報が手に入ります。そういった意味では実学のこういった技術・家庭を学んで、それを自ら行うということの環境が整っているということ、コロナの状況を通じても認識させられたところです。

そうは言っても、やっぱりこれからの技術・家庭でしっかり基礎を作っていかなければいけないのはI C T技術の育成とプログラミング教育のような、今後I o T、A I等のソサエティ5.0、社会の基礎知識としてのI C T技術の習得、これは欠かすことができないと思っております。こうしたものに資する教科書としては、東京書籍が全体的にバランスよく作られておりまして、特にI C Tやプログラミング分野の情報は大変豊富であると私は思いました。したがって東京書籍を採択したいと思っております。

ということで皆さん、技術・家庭の技術分野は東京書籍ということで一致しておりますのでよろしいですね。

(「はい」の声あり)

○【**是松教育長**】 それでは技術・家庭、技術分野につきましては東京書籍を採択することといたします。続いて技術・家庭の家庭分野について、いかがでしょうか。

山口委員。

○【**山口委員**】 家庭の分野も同じ会社さん、教育長が言われたまさに自分の生活そのものをしっかり見ていくという部分、現在の状況とこれからどんな社会になっていくのかなみたいなことまで含めて考えていく部分になると思います。開隆堂さんの中では持続可能な社会のこと、全部の教科書のポイントになりますけれども、非常に強調されているような印象を受けましてよろしいのではないかと。東京書籍さん、自立と共生を目指してと非常にはっきりと方向性を打ち出されている。食事の部分から始まってということで、生活のイメージ等を作りやすいのかなと。それから、人との関わりの中では幼児に関して非常に細かく出ていて、保育園のこととかが出ていて、人との関わりの中を、自分も中学生体験しているわけですね、幼児時期。高齢者の時期を実は体験してないのですね。我々はもう高齢者ですけども。そこから辺の違いが実は大きくあって、子ども自身が分かるという部分がすごくあるから、人って何なのかな、人との関わりは何かなみたいに考えることができるかなと思って見ておりました。東京書籍さんがよろしいと思っております。

○【**是松教育長**】 ほかにいかがでしょうか。猪熊委員。

○【**猪熊委員**】 私もいろいろ総合的に見て東京書籍さんがいいのかなと思えました。実技の面では手縫いの糸が青色で分かりやすくなっていたりとか、失敗例が載っていて失敗に気がつきやすいというか、教えやすいのかなと思えました。今、山口委員もおっしゃったのですけれども、教科書の後ろのほうに子どもの視野体験眼鏡とういうのがついていて、それをかけると幼児の世界が体験できる、ちょっと視野が狭くなっている感じになっているかと思ったのですけれども、そういうことが体験できて、中学生なので10年ぐらい前のことって感じになるのでしょうか。忘れてしまった世界が体験できて、大人とは視野が違うのだということが分かるようになっていていいのかなと思えました。

あと、家庭科で消費トラブルとか借入のことまで学ぶのだなということを、先ほどほかの教科でもあったのですけれども、初めて知りました。各社いろいろなところが詳しく書かれていて、ポイントが違うのですけれども、こういうことまで学ぶのだなということを、教科書を全部見て思いました。

あと、教育図書などは家庭内事故のことがすごく多く書かれていましたし、東京書籍さんはリフォームとかリメイクとかの話題が結構多く載っていたかなと思いました。全体的に見て、最初に言いましたが東京書籍さんを推薦したいと思います。

○【操木委員】 私も東京書籍を推薦したいと思います。今、お2人から出ていましたけれども、視野体験眼鏡、幼児の世界を、幼児の視野を体験する。要するにその人の立場とか、幼い子どもの視野はこんなだったとか、そういったことってすごく心を育てるのにいいなと思ったり、実際に中学生が保育園とかで体験とかすると、すごく優しくなって帰っていく姿をよく見るのですけれどもね、やっぱりそういったいろいろなことを数多く体験させてあげている教科書の内容というのはすごくいいなと思ったり。

それから、今度は逆に自分はとてもかなわないようなプロのほう、幼児は自分より小さいとか自分より視野が狭いとか、自分より物すごくプロのほうの世界ものぞくようになっている、そういう構成がすばらしいなと思ったり。それからほかの国語と書写とか、いろいろなつながりはあまり私、意識しないのですけれども、この技術科と家庭科の教科書というのはやっぱり同じでないと、単元構成が違ってくると、学校として取扱いにくくなってしまわないかなと思ったり、技術に合わせてというところも加味して、東京書籍を推薦したいと思います。

○【大野委員】 技術と家庭と見たときに、個人的には家庭のほうに興味がありまして、その中でも特に調理のところに興味がありましたのでよく見ました。調理実習の写真が大変見やすい。それから臭みを消す方法とか、鮮度の見分け方などを食い入るように見てしまいました。実物大の食品で非常に分かりやすかったと思います。ということで東京書籍を推したいと思います。

○【是松教育長】 技術・家庭の家庭分野ですけれども、3つの領域から成っておりまして、家族、家庭生活、衣食住の生活、それから消費生活、環境。教育図書と開隆堂出版については学習指導要領の順番、ABCという順番なのですけれども、この順番に並んでいるのですが、東京書籍はどういうわけか衣食住の生活、Bから始まってA、Cに行くという組み合わせになっています。これは現行も東京書籍だけはそういう組み合わせでずっと一貫しているのですね。それはともかく、より便利で健康的で豊かな生活を実現するための知識の習得と能力の育成を図っていくということで、私も東京書籍がいいと思っております。

したがって技術・家庭、家庭分野についても東京書籍とすることでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは技術・家庭、家庭分野については東京書籍を採択することといたします。

続いて、英語についてご意見を伺います。

○【大野委員】 これは自分がそれで習ったという背景があるのでしょうか。なるべく客観的に見ようと思ったのですけれども、三省堂が非常に充実したつくりになっているなという感想を持ちました。ただ、どのようなところまでしっかり教えるかということで、やや分量的には多いのかなと、しっかりしている分だけ。という感想を持ちました。

対してもう1つ挙げるのは、光村なのですけれども、これは逆にやや分量的に少ないのかなという気がしましたが、しかし、はっきりここだけ押さえていけばいいのだと、一番基礎になるところなのだということをしっかり教科書で教えて、あとはその状況によって、どんどんプリントを配ったり応用したりするということもできるし、ともかくここだけはきちんと覚えておこうねというところでは光村がいいかな



と思いました。やや口語的な文章が多いのかなと思いますが、それは生きた英語であるということも言えますので、光村を推したいと思います。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。猪熊委員。

○【猪熊委員】 英語ですが、小学校も今、外国語が始まりましたので、各社さん、小学校のことも意識されているのかなという感じがありました。小学校とのつながりというと、国立市は、小学校は教育出版さんの教科書となっておりますので、例えば今回中学校の教科書の中にも「The Letter」というお話が載ってまして、これ小学校のほうの教科書にも載っていて、当然お話は一緒なのですが、使っている単語とか文が違って、小学校のときに見た文章から自分が中学校になってからこれを見ると、成長したなという感じがしていいのかなとも思いました。

光村図書さんは、教科書のタイトルも小学校のタイトルの「Here We Go」に変えて中学校の教科書ということにされていたので、やっぱりつながりを意識されているのかなという感じがとてもしました。

全体に小学校で割と英語の会話の部分を学習してきていることを踏まえての中学校の教科書ということになっているのかなと思ひまして、今回結構文法というところが目立つようになってきたなという印象を受けました。どの場面で文法、グラマーのところを入れてくるかというのは会社によってそれぞれかなという印象を受けました。その中で光村図書さんは今までは「Language Focus」というところだったのが「Active Grammar」ということになって、シンプルにまとめてあって自主学習にも使いやすいかなと思ひました。

三省堂さんは今、大野委員もおっしゃったのですが、充実している分ちょっと多いかなという感じもしまして、難しい印象を与えてしまうかなことを思ひました。小学校から英語を始めているので、中学校に来て英語の壁みたいなものがなくなって、中1ギャップの中の1要素がなくなっていいのかなと思ひますので、あまり難しいかなという印象になるような教科書はちょっと推薦しにくいかなと思ひました。なので、私は光村図書さんを推薦します。

○【山口委員】 英語は、猪熊委員も言われたように、小学校から教科になって、教科書も決まって、始まって中学校と、そういうふうを受け止めるのは初めてだと思うのです。多分これ高校の英語にもつながって、小学校は外国語ですが、基本英語でやっていますから、そこら辺連動して変わってくる部分がある。それは全体的な文科省の考え方がベースにあるのかもしれないのですが、そういう影響を非常に受けている部分かなと思ひました。各会社さん出していただいているのですが、全部そこら辺を意識したつくりになっているような気がします。ただ、その部分の出方がそれぞれの会社さんで違ってきている部分があるので、またこれはこの先、進歩していく部分があるのかなと思ひます。

国立は、近年はずっと光村さんを使って今、進めております。それをベースにして審議会の報告等々見ますと、光村で今までやってきた部分、教科書名も変わったところで光村図書さんの内容も変わってきている部分があるのですが、そういうことを踏まえて見たときに、この教科書でやれるという雰囲気の話と私は受け止めた部分があります。光村さんでもかくやってみようという意思がすごくあって、聞くこと、話すことから入ってどんどん進んでいくという感じをすごく受けた部分があります。光村さんでよろしいかと思ひます。以上です。

○【操木委員】 皆さんおっしゃったように、小学校で英語が始まりました。小学生は今、英語がみんな大好きなので、本当に楽しみにして、そういう場面を見て、何年か前の中学生を見ると、1年生は英語が楽しいのだけれども、卒業する頃には二極化してしまうのです。そういう部分がたくさん

あって、ですからその再現をしてほしくないと、中学校の英語ではね。そんな思いがまずあるというお話をさせていただきました。

そうなってくると、小学校の英語はアクティビティがすごく多いのですよね。その中で楽しさを知って体験して、そしてもっと上手に話すようになりたいと、そういう気持ちを持っていくので、その気持ちを酌んで、そしてうまく育てていってほしいなと願うのですね。そういう意味で、今、皆さんからも説明がありましたけれども、各社とも小学校からのつながりとか接続とか、そういったことをすごく意識してくださっていることにすごく感謝を申し上げたいなという気持ちです。そして、ずっと国立で使っていた光村さんのほうもそういったことも言われていること、それから猪熊委員が言いましたね、グラマーは「Active Grammar」ということになって、それはやっぱり生徒自らがそういう気持にならないと学習できないし、そういう気持を促すための捉え方ということは小学校の英語と継続して、すごく結びついているなということで、光村の考え方がすごくいいなと私は思いました。そこにプラスして教育出版のアクティビティがたくさん載っている教育出版のアクティビティをいろいろ取り入れていただければと思います。順位としては光村、教育出版ということで。

○【是松教育長】 私たちと言ったら皆さんに語弊があるのかな。私の時代の英語というのは1964年から66年ぐらいの中学生をやっていたのですけれども、当時は海外旅行などありませんし、グローバルなんて言葉も全然聞いたこともなかったし、田舎に住んでおりましたので、英語を聞いたり話したりすることはほとんどないという中で、とにかく英語の学校教育は海外の文献が読めて、ある程度の文章が書ければいいというところに徹していた気がします。つまり、書くことと読むことという部分が主流の英語教育でした。時代がそれから50年半世紀以上たつと英語教育も随分変わるものでして、今は本当に聞くこと、話すことをいかに身につけさせていくかという英語教育に変わっていると思います。もちろん小学校に外国語なんていう教育課程もありませんでした。時代は大きく変化しているというのを実感しますが、そうした中でもなかなか日本人の場合は、島国であるがゆえになかなか外国と接触する機会が少なく、生きた英語を活用する機会が少ないと思います。せめて学校の中で聞くこと、話すことをしっかり機会を増やしていくしかないのだろうなと思っております。そうした意味で聞くこと、話すことに重点を置いた教科書ということは教科書採択に必要な視点かなと思います。

国立の場合、光村図書が英語教科書に参入したときから、どういうわけか光村図書を採択したのですね。それからずっと引き続いて光村を採択しております。一般的に英語というと、三省堂とか東京書籍、学校図書というところが採択されるところが多いのですけれども、国立市はどういうわけか少数派の光村図書ということでやってきました。今回審議会からそろそろ光村いいよって言うてくるのかなと思ったら、どうも審議会の報告を読んだ限りだと、非常に光村の評価が高いということです。それだけ国立の英語教育の中で教員が光村を支持しているというか、光村図書で前向きに子どもたちの英語能力を育てていこうという強い姿勢が見えて、ある意味頼もしいなとも思ったところです。光村のほうも「Here We Go」という形で新たに心機一転教科書名を変えて、新たな教科書編集をしております。そういった意味で現行使用の教科書と同じですので、3年生、2年生についてもなじみやすいのかなと思う次第です。そういった意味で私も光村でよろしいと、いいのかなと思っております。

それでは英語については皆さん、光村ということで異論がないようですので、光村図書を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 それでは、英語については光村図書を採択することといたします。

それではいよいよ最後になります。特別の教科 道徳についてに移ります。ご意見を頂戴いたします。

山口委員。

○【山口委員】 道徳は2年前に教科書を採択して去年1年、今年は今、授業が始まったばかりだと思うのですけれども、進んでいるところかと思います。道徳は、1つは人として成長していく中で、様々ないろいろなことを感じる部分、人のことが気になったり、自分のことはもっと気になるのだけれども、よく分からない。思っていることと行動が違ったりとか、様々な場面に出会う部分というのが、さっきの保健の分野とダブる部分があるのですけれども、そういう葛藤みたいのを思う部分の中学生という年代。もう1つは将来のこととか、成長していくということに関してとか、周りの社会のことに関して様々な関心が出てくる、地域のことも含めてですね。全てのことを習っている、勉強、それから自分自身が育っている環境、その他も含めて、それ自身の中で成長していくことをもう一度見るとか、どういうことなのだろうかといういいポイントの授業、教科だと思います。

私自身はそういうことがしっかりといろいろと思える部分ですね、それから、そのためにはいろいろな人の意見の違いみたいなものを感じられる部分、難しいのですけれども、そういうようなこと。それから新しい深い内容のものがやっぱりあるといいなということを感じながら。最後になるのですけれども、やっぱりそれを通して先生方が教えていきますので、先生方が教えやすいもの、もう一方で。やっぱりすごく教えるのが大変な教科かと思います。

もう一方、思っているのは、今のコロナで大混乱をしている状況というのが、まさに道徳で学ばなければいけないことの状況を全部生み出しているような気が僕はしています。だからコロナで全部35コマ作れるのではないかと思うぐらい様々あるのではないかと。ただ、そういう授業はできないと思うのですが、私自身はそれぐらい深い、答えがないし、どうなっていくか分からないし、じゃあ、そのときに人との関係をどうしていったらいいか、自分はどういう行動を取ったらいいか。これは国際的な部分まで含めていろいろなことを考えさせられる。さっきスペイン風邪の話も出ましたけれども、過去から学ぶこともできるのだろうか。いろいろなことがあるからと、そこまで考えてしまうと教科書の選び方が難しくなってしまうのですけれども、そういうことも思いつつ全体を見て、現行で使っている東京書籍さんの教科書。今現行で使っている部分もあるので、そういう意味では先生方も慣れて使っている部分がある。東京書籍さんのほうで、私は前回のときも言ったのですけれども、2年生の教材で「キセキの1週間」という生きることと死ぬことを題材にした部分で、死ぬということではなくて生きている、生きていた、その人が生きていたことのあかしがそこにあるのだみたいなことが出ている教材だとすごく感じて、教えるのもすごく難しい部分もあると思うのですけれども、そういうのが載っているのはいいなと思いました。

光村さんのほうは、さっきも言ったのですけれども、その教科書がどういう方向を向いているのかというのは、教科書の題名のところにあるかなと思います。光村さん「きみがいちばんひかるとき」と書いてあるのですよね。まさにこれですね。ひかるときは何かなみたいなことを求めていくということが出るので、これもしっかり方向性を出されていて、本当にいい教材が載っていて、ただ、それゆえに3年生ぐらいになると、やっぱりこなすのが大変であるという意見も当然審議会からも出ております。そんなところがあると。

もう1つ教材でいうと、東京書籍さんは今、使われているので、前回の採択のときも言ったのですけれども、1年生だったと思うのですけど、清掃の作業のことが出ている教材があって、その仕事に関しての、見方とすると差別的なベースを材料にした作品と思われる部分がまた今回も載っているというのが、正直言いまして残念でありました。違うものに差し替えていただければうれしかったのですけれども、そ

うはなっていないので、これは私の感じ方ですけれども、残念だなと思うところです。

ですから、今、光村さんを推したい気持ちを強く持ちつつも難しさもあって、東京書籍さんと迷っているところというのが私の今の状況です。以上です。

○【大野委員】 確かに光村、その前に今回いろいろな教科書を読んでみて、結局道徳の教科、道徳というのは、例えば数学でここまで中学で学ぶことというのが明示されているのに対して、何をどう教えるのかということがかなり出版社によって違うなと思いました。つまり、したがって教科書の内容、教科書の目指す方向、それが同じ道徳という科目でも随分違うという感じです。今、山口委員言われたように、光村のほうは例えば私が感心したのは、ごみ太郎のクロスプレーという文章があるのですけれども、大変いいなと思いました。あと、多分中3だったと思うのですけれども、最後のほうに菊池寛の文章も載ってくるのです。そうすると、それを読むと答えがないというか、いろいろな捉え方ができて、あたかも国語の勉強ですね。現代文の授業を展開するような、そんな気持ちにもなったのです。ただ、そこには本質的なことがいっぱいあるでしょうから、大変深い意義がいろいろあるでしょうけれども、ちょっと中学生としては結論が出ないというか、漠然としたまま終わってしまうのかなという感じを受けたのが光村です。

それに引きかえて、東京書籍ですけれども、割と文章がいじめっ子の気持ちというのはこうだから駄目なのとかダイレクトに、大人が見るとそれはそうだよねというようなことで、あまり答えがどこに行ってしまうのだろうということではなくて、割と規定した答えを規定したような感じを受けるのですね。そんな全体の感じなのです。ただ、東京書籍のほうでは漫画が使われていて、それが特に中2と中3のところでは、2と3のところでは導入の漫画が非常にタイムリーだと思いました。今ある問題点を捉えて、それをきっかけに考えさせる、そういう導入になるなと思いました。ただ、中1の漫画が2つの心という漫画ですが、ちょっと淡泊すぎてというか、はしょってしまって、そこに書かれているシチュエーションがいまいち分かりづらいという感じがあったので、できれば中1だし、中2、中3より漫画の量を増やして、もうちょっと具体的なシチュエーションをはっきりしてあげたほうがいいのかと思いました。が、しかし、漫画から入って現代の問題点をピックアップして、そこから展開するという方法はいいと思いました。

あとやっぱり、道徳だと、最終的によかったか、自分がどう取り組んだか分からないというもやもやしたものが、白黒はっきりしないでグレーな気持ちで終わってしまうのもありだと思うのです。それが評価のところ自分の学びを振り返ろうということで、何かははっきりとA B C Dできちんと、東京書籍の話ですけれども、取り組めたかどうだったかというのは、A B C Dで自己採点するというのがちょっと違和感を私は感じたので、それがなくてもいいのかなという気がしたのです。

それが2つのものなのですが、もう1つ、この地域と密接に関連しているのが教育出版の教科書なのですけれども、これは石井筆子、滝野川学園ですね、それから藤井輝明があって、何か国立のゆかりの教科書みたいな感じはしたのですね。そのほかにもバイオリニストの五嶋みどり、それから中村雀右衛門が歌舞伎役者は自分の限界にギリギリで、自分の芸にギリギリのところ向き合っているという、なかなかそれはいい文章だったのですけれども、タイムリーというか、ゆかりの教科書だなという感じはしました。

結論から言いますと、東京書籍を挙げたいと思います。理由は先ほど述べたようなことであります。結局道徳というのは中学生のうちに生きていく、中学生として生きていくルール、それを確立するということで、大人から見れば、それはそうだよねということかもしれないけれども、それを再確認する、いじめは本当にいけないのだよねと、困っている人に対してはこうだよねという、そういうことの再確認の場でもあると思うので、中学生として生きていくためのルールを確立する、そのためのテキストとして東京書籍を推薦したいと思います。

○【是松教育長】 いかがでしょうか。

猪熊委員。

○【猪熊委員】 私も東京書籍を推薦したいと思います。山口委員もおっしゃっていたのですけれども、2年前から、昨年度と今年度と道徳が特別の教科ということで教科化されて授業をしているかと思うのですが、やはり道徳公開授業のときに見に行くと、先生方もその単元に出てくることを生徒に理解してもらおうと、権利と義務だとなかなか題材的に分かりにくかったりすると、掃除当番の話に置き換えて話を進めていったりとか、分かりやすいように努力されている姿を見たりしていたので、別にそれを倣えというわけではないのですけれども、学校の中でも、こういうふうにしたら分かりやすくなるのではないかなとか、検討されているのかなということを思いますと、今年度は1学期があまりできなかったと思うのですが、昨年度と今年度少し使われている東京書籍さんの教科書で、また継続していくのもいいのかなと思いました。

内容的にも今回いじめの項目が1つにまとまっていたりとか、各学年で2つか3つ新しい題材に変えているところがあるぐらいで、それも分かりやすいものに変えているのかなという印象を受けました。例えば友情の題材のところでは、スピードスケートの小平奈緒選手と韓国の選手のオリンピックが終わったときのお話になっていたりして、そういうものだと恐らく中学生ぐらいだとリアルタイムでそこを見ていたのではないかと、分かりやすい題材に変わっていたので、このまま東京書籍さんの教科書でいいのかなと思いました。

今、大野委員のおっしゃった自分の学びを振り返ろうというシートなのですが、前回採択のときにもそこのところはいろいろ意見があったところかなと記憶しておりますが、審議結果の報告のときには、A B C Dとかあるので、それをそのまま成績につなげているわけではないということで、このシートも含め評価の仕方を先生方のほうでも検討してつけていってくださっているようなので、このまま東京書籍でいいのかなと思っています。以上です。

○【是松教育長】 操木委員、お願いします。

○【操木委員】 昨年、今、話が出ましたけれども、中学校の道徳授業地区公開講座にお邪魔させていただきまして、中学校の雰囲気のがらっと変わったということを感じたのですね。よく中学校の研究会とか行きますと、国語科の研究だとか社会科の研究、音楽科の研究、そういう教科の研究の中で、やっぱり専門性があるせいなのか、みんなが小学校のような集団とちょっと違う雰囲気を感じたのですけれども、昨年、国立の中学校にお邪魔したときに、みんなが特別の教科 道徳について、学び合って、子どもたちにどういった心を育てていくのかということにすごく真剣に取り組んでいる姿を見て、すばらしいなと思ったのですね。そのときに使っていた教科書が今、使っている教科書ということになるのですけれども、昨年から使って、今年はほとんど授業ができていけませんので、すごく一生懸命取り組んでくださっていると思うのですけれども、まだ、教科書を使い込んではいないのではないかなという気がします。ですから、昨年の積み重ねをまたここで伸ばしてあげてほしいなと思いますので、そういう意味で継続ということもいいのではないかなと思いました。

あと、教育出版のほうで、先ほど大野委員からも出ましたけれども、地域に関わる深い教材をすごく扱っていて、国立はもちろん、国立に住んでいる国立の子どもたちが国立の教材についてすごく興味を持ちますし、地域を愛する心というのも育つと思います。それと同時にやはりほかの地域のことを学びながら、ほかの地域のこと大切にと、そういう心も育つと思うのですね。ですからそういった意味で地域教材というのはすごくいいなと思います。やっぱり道徳を通じて子どもたちに自分をまず大事にする、大

切にする心を持ってほしいし、それから人を大切にしてほしいし、自分の地域はもちろん、ほかの地域を大切にしてほしいという気持ちも私、すごくあるんですね。ですから地域の教材も扱うということも、これからいろいろな道徳の教科書の中で増えていくといいなと思いつつ、現行の東京書籍を推薦したいと思います。以上です。

○【是松教育長】 道徳教科書も3年がたとうとしておりまして、また、前倒しでもそもそも始まったものですが、新学習指導要領の本格実施となることでの新たな教科書ということで、どの程度の改定があるのかなということも大変興味深く思っておりました、結果的に大きく変えていったところもあれば、ほとんど変わっていないという教科書会社もあります。教育出版についてはほとんど内容の入替はなくて、私も引っかけたのですが、3年生で死刑制度を考えるというテーマがあったのですが、それは裁判員制度を考えるに変更されている程度ですね。それから、日本文教出版も若干教材の入替はありますが、それほど変わっていないし、ノートつきについては引き続いてこれはその形でいくということでやっているようです。廣済堂あかつきについても、最後にいじめを許さないというテーマが新しく入ってきてだけで、あとはあまり変わってなくて、ノートつきでやると。日本教科書に至っては一切の変更がないという状況でした。それから、学研教育みらいについては5～7テーマほどの教材の入替をしております。また、目次が今まで非常に分かりづらかったのですが、目次のマーク分類がついてきて少し丁寧にはなってきたかなと感じたところでございます。

結果的に大きく入替を行っているのが東京書籍と光村図書で、道徳教科書、入れ替えればよいというのではないのですが、やはり道徳教科書、まだまだ試行錯誤の教科書だと思うので、常に見直しを行って、出版社としてこれは入れ替えたほうがよいという思いがある教材については、やっぱり積極的に入れ替えてほしいなと私は思ったところです。

そうした意味では、東京書籍、光村図書の姿勢というものには非常に好感を持てることです。光村図書なのですが、実は2年の教材に「三百六十五×十四回分の『ありがとう』」という難病の子どもの手記があって、これは非常にいいテーマだったので、どういうわけか2年生から1年生に移っているんですね。ところが難病になってお亡くなりになってしまうのですが、その子がこの手記を書いたときは中学校2年生なのですね。多分最初に中学2年生の教材として入れたのだと思うのですが、それを1年生に移していたり、「紙芝居」という教材も2年生でいい教材だなと思ったのが1年生に移ったりして、教材の移し方がよく分からないところもありました。今までシーズン4だった分け方をシーズン3に組み換えているところもあります。それから3年の教材が3つ減って7つ入れ替わっているということですね。

光村図書にしろ東京書籍にしても、教材の数を少し減らしているところはいいのかなと思います。今まで大体34教材あったのが31教材に光村はなっていますし、東京書籍は30教材が28教材ぐらいに減らしております。付録教材等は変わらずにありますけれども、そういった見直しがされていると思います。東京書籍の見直しについては、私が気になっていたのは、2年生にこれまで「例えば君なら」ということで、許さない心、決まりを守るという単元のところで、内容が中学生のたばこの問題や、あるいはねぶたでの中での暴挙の問題だったので、いま一つなじまないのかな、国立では。と思っていた教材が今度なくなりまして、「いいねのために」ということで、正しい判断ということでSNSに関するテーマに変わっていたのでほっとしたところです。

それから、1年生の新教材の中に、「靴」という教材が入りました。これはいじめの当事者と家族の思いや心情を扱った非常にいい教材だなと思いました。そんなことで東京書籍、これまで3年間使ってきたの

ですけれども、それをしっかり見直して、さらに扱いやすい教科書に切り替わっていったのかなということが期待されますので、私も引き続き東京書籍を採択したいと思います。

それでは、道徳については皆さん、東京書籍ということですので、特別の教科 道徳は東京書籍を採択することといたします。

それでは、以上をもちまして、ひとまず各教科での採択の議論が終わったところでございます。確認のために事務局から今日採択いたしました教科書会社名を読み上げていただいて、確認していただきたいと思っております。

○【市川教育指導支援課長】 それでは、ご審議ありがとうございました。採択いただいた教科書について確認をさせていただきます。国語 光村図書、国語書写 光村図書、社会 地理的分野 東京書籍、社会 歴史的分野 東京書籍、社会 公民的分野 教育出版、社会 地図 帝国書院、数学 東京書籍、理科 啓林館、音楽一般 教育芸術社、音楽器楽 合奏 教育芸術社、美術 日本文教出版、保健体育 学研教育みらい、技術・家庭 技術分野 東京書籍、技術・家庭 家庭分野 東京書籍、外国語 英語 光村図書、特別の教科 道徳 東京書籍、以上になります。

○【是松教育長】 ただいま市川教育指導支援課長から全教科について、採択図書を読み上げていただきましたが、間違いはございませんでしょうか。

それでは、ただいま市川教育指導支援課長から読み上げられました図書を議案第 41 号「令和 3 年度の国立市立中学校使用教科用図書」として採択いたします。

以上のとおり、国立市立中学校における令和 3 年度から使用する教科用図書が採択されました。新学習指導要領では様々な変化が訪れるであろう将来に生きる子どもたちに身につけさせるべき資質、能力として、生きて働く知識、技能、どんな場面にも対応できる思考力、判断力、表現力、そして学んだことを自分の人生や社会に生かすことができる学びに向かう力と人間性というものを挙げております。これから新学習指導要領の下でその育成を目指していくことになるわけでございます。これらの資質、能力の育成、言うまでもなく教科書の如何だけで行っていけるものではありません。これらの教科書を活用して、子どもたちにとって分かりやすく、楽しい授業や学習活動をいかに展開するかという教師の指導力、授業力と合わさって育成されていくものでございます。中学校の先生方には引き続き新しい教科用図書の研究や関連教材の活用についての研究、そして最も重要となる授業研究に励まれ、子どもたちの資質、能力をしっかりと育成していただきますことを切にお願い申し上げます。

最後に本採択に当たりまして、調査研究を行っていただきました教科用図書審議会、並びに調査研究委員会の先生方のご尽力に厚く感謝申し上げますとともに、教科書採択にご意見、ご要望をお寄せいただきました保護者や市民をはじめとする多くの皆様方に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、審議の進行上、ここで暫時休憩といたします。再開を 4 時 15 分といたします。

(休憩)



○議題（3） 議案第 42 号 令和 3 年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について

○【是松教育長】 それでは、休憩を閉じて議事を再開いたします。

次に、議案第 42 号「令和 3 年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について」を議題といたします。最初に事務局から説明をお願いいたします。

市川教育指導支援課長。

○【市川教育指導支援課長】 それでは、議案第 42 号「令和 3 年度使用国立市特別支援学級教科用図書の

採択について」ご説明いたします。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項に基づき、令和3年度に国立市立小中学校の知的障害特別支援学級で使用する教科用図書の採択となります。国立市特別支援学級教科用図書採択要綱に基づき設置されました教科用図書審議会の調査及び審議結果につきましては、7月21日に開催されました教育委員会定例会において、教科用図書審議会委員長から机上に配付しました資料のとおり、報告をさせていただいております。なお、中学校の各教科の検定本につきましては、資料の発行者名が空欄となっておりますが、先ほど議案第41号で採択いただきました中学校の教科用図書を使用することになります。

説明は以上になります。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○【是松教育長】 ただいま教育指導支援課長から説明を頂きました。

それでは、審議に入りたいと思います。こちらの7月21日開催の定例教育委員会で教科用図書審議会からの審議結果の報告を受けております。ただ、特別支援学級使用教科書の採択につきましては、障害の種別内容に応じて、様々に各学校、各学年において、また教科においても異なる教科書の報告がされております。したがって、個別の教科ごとあるいは学校、学年ごとの採択ではなくて、一括して教科用図書審議会からの審議結果報告についての内容での採択を行っていきたいと思いますので、それを踏まえてご意見等を頂きたいと思います。いかがでしょうか。

猪熊委員。

○【猪熊委員】 7月の定例会で向井先生から報告を伺いまして、この資料を見ていまして、五小の生活科の本なのですが、結構楽しそうなタイトルのものとかも多かったのを見てみたいと思いました。市教委訪問や公開授業に行ったときに、教科書を使っている授業にあまり出会えていなかったの、本を見たことがなかったのですね。中学校の教科書みたいに見本も特になかったので、向井先生のほうにお願いして第五小学校の児童さんの個人のを貸していただいて見してきました。

生活科のほうの「子どもの図鑑たべもの」とか、「子どものマナー図鑑おつきあいのマナー」とか「体験を広げる子どもの図鑑からだとけんこう」「シリーズ生活を学ぶ遠くへ行きたいな」という4冊がちょうど学校に置いてあって見せていただきました。おつきあいのマナーなどは最初のところに、初めにこの本が全てではないし、絶対でもない。学校や家庭でマナーをプラスしてください。周りの人を思いやる心を育てる助けになるといいですということが書いてありました。中を見ていくと親は味方です。勇気を出して相談しましょうということも書いてありまして、今回は特別支援学級の教科用図書の採択ということでここにも載っているのですが、いわゆる一般の本だと思うので、図書館とかにあったら普通にいろいろな児童にも見てもらえるといいかなとも思いました。

「子どもの図鑑たべもの」の中で大豆でできたものの写真、そういったコーナーでありまして、すごく写真がたくさん載ってまして、いわゆる大豆からできたもの、お豆腐とか、そういうものなのですが、食べ物を変身させる小人さんと表現していて、とても可愛いし、分かりやすくいいなと思いました。

あと、多分これは3年生の国語の教科書で、姿を変える大豆というタイトルのものが確かあったと思うので、何回か市教委訪問に行ってもそんなことに取り組んでいる児童さんを見ていたのですが、その教科のときに、とてもこの図鑑が役立つのではないかな、検定本を使っていると思うので、その教科のときには役立ちそうだなと思いながら見させていただきました。

感想になってしまいましたが、どれもすごく、きっと先生たちがこの子たちに合うのだなと思って選んでくださっているのだなと思いました。



○【操木委員】 私も先日の説明を受けたときに、自分からも質問したのですが、この教科書を選定するに当たって1人1人の子どもの状況、それから学校の教育環境、そしてまた家庭との連携を取りながら選定して下さったということを知り、本当に長い時間をかけて選定してくれたのだなということ、頭が下がる思いでした。多分1人1人、教科書、本当に子どもたちにマッチしたものだと思いますので、この提案を全面的に受け入れたいなど、そんなふうに思っております。以上です。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。今回第一小学校が非常に特徴的で、障害の度合いにばらつきがあるということもありまして、算数や国語等の一般教科においても個人ごとに検定本がいいのか、附則9条本がいいのかということで選定を行っていただいております。それから小学校の生活科、中学校では職業・家庭科のほうはどことも附則9条本を使用していただいております。この際にも一小においては個人ごとに附則9条本の中での区別をして採択を丁寧にやっていただきました。また、一中と三中の英語については、検定本と附則9条本に分かれていますけれども、これも学校の事情というよりもそれぞれの子どもの実情に応じて、採択についての検討を行った結果こうなったということでございますので、各学校におかれましても個々の子どもに寄り添った新たな教科書採択をしていただいたのだらうなと思っておりますので、私もこのままこれを採択したいと思っております。

ほかにいかがでしょうか。

それでは採決に入ります。皆さん、ご異議がないようですので、審議結果報告のとおり採択することよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 議案第42号「令和3年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について」は、審議会の審議結果報告のとおり採択いたしました。

これで本日の審議案件は全て終了いたしました。なお、次回の教育委員会でございますが、先般の教育委員会でご案内申し上げましたとおり、定例会を8月18日火曜日午後2時から、会場は委員会室で開催することが決定しております。

以上をもちまして、本日の臨時会を閉会いたします。

傍聴の皆様、お疲れさまでした。

午後4時20分閉会